



# のびのび

## No.73

2009年2月1日発行

発行所：医療法人ふるかわ医院

〒619-0221

京都府木津川市吐師宮ノ前 15-18

Tel / fax 0774-75-2650

予約専用電話 ☎0774-75-2652

<http://www.furukawa.or.jp>

### Hib (インフルエンザ菌b型) ワクチン接種開始！！

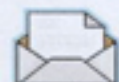
1月から、ふるかわ医院でもHibワクチンの接種を始めました。Hibによる髄膜炎になると、死亡したり、「てんかん」などの後遺症を残す人が、30%にもなります。Hibによる髄膜炎となる確率は、「おたふくかぜ」や「水ぼうそう」になる確率より低いですが、なると重症です。ふるかわ医院では、約5年に1人Hibによる髄膜炎患者さんが出ています。「おたふくかぜ」や「水ぼうそう」になっても、ほとんどが治ります。ですから、いったんなると重症化する「Hib」の予防注射を優先した方がいいでしょう。

詳しいことは、受付でお聞きください。

Hib = ヒブ



ふるかわ医院で予約も1号接種も1号の子どもさんのお母さんからメッセージをいただきました。



友人の子どもが生後6ヶ月の頃、細菌性髄膜炎にかかりました。半身の軽い麻痺(マヒ)と発達障害が残りました。「Hib ワクチンが日本で接種されていればこの子はこんな事にならなかった。たくさん子ども達が今普通に生活できたはず…」と友人は言います。幸いなことに友人の子どもは軽度の障害ですみました。でもHibによる感染症で子どもを亡くした母親、重い障害をかかえた子ども達とその家族の話とその友人からたくさん教えてもらいました。Hib ワクチンの接種は正直安くはなく家計には大打撃な値段です。うちも家計からはとても出せないものですが、身近なところで細菌性髄膜炎の怖さを見て聞いて知っていました。髄膜炎になってからでは遅い！！高い保険ですが子どもの命と比べたら比べようのない値段だと思い接種を希望しました。

ヒブ(Hib)は、インフルエンザb型という細菌(冬に流行るインフルエンザとはまったく別物)で、乳幼児に髄膜炎や喉頭蓋炎や肺炎など引き起こします。細菌性髄膜炎の3分の2はこの菌が原因であるといわれています。ヒブの髄膜炎は麻痺や難聴の後遺症が残ったり20人に1人が亡くなったりする恐い病気です。しかも最近のヒブは抗菌薬(抗生物質)が効きにくい耐性菌が増えてきています。

ヒブ髄膜炎を予防する唯一の方法がヒブワクチンです。

世界ではすでに100カ国以上の国でヒブワクチンが導入されヒブ髄膜炎が過去のものになってきています。日本でもやっと接種できるようになりました。

定期接種になっておらず有料になります。



生後2ヶ月～5才未満の乳幼児が対象となります。

MRワクチン(麻しん・風しん混合ワクチン)を忘れないで受けましょう！！

1歳のお誕生日がきたら！就学前のお子さん(年長さん)！中学1年生の人！高校3年生の人！この方たちは無料でワクチン接種できます。詳細は受け付け窓口まで！！